

「震災学習」について考える

子どもたちにクライシスマネジメント力をどうやってつけていくか。

- 子どもたちにどんな震災であったかを写真・ビデオ・DVD等で紹介する。
 - へえ、すごいなあ。
- こんなにたくさんの建物が、燃えたり崩れたりしたんだよ。
 - すごい。ひどいなあ。おもちゃみたいにつぶれている。
- こんなにたくさんの人が、死んだんだよ。
 - かわいそうに。子供もたくさん死んでかわいそうだ。
- こんなすばらしい行いがあったんだよ。世界中からたくさんの人が、支援してくれたんだよ。
 - いろんな人が来て、いろんな面で助けてくれたんだ。うれしかったらうなあ。
- 被災した人をなぐさめたり、元気付けたりするために、多くの人が、きたんだよ。
 - 有名な人がたくさんきたんだね。いいなあ。
- 被災した人たちをなぐさめるために、自分のできることをしよう。
 - 「がんばろう」の手紙を書こう。千羽鶴を送ろう。
- みんな、復興のために努力したんだよ。勇気を持って、立ち上がったんだよ。
 - 悲しいのによくがんばったんだ。
- みんなががんばったから、今の神戸があるんだよ。
 - 地震がなかったときのようになってるね。地震の記念碑みたいなものがあるよ。
- 災害が起こったとき、どうしたらいいか考えよう。
 - 自分の命は、自分で守ろう。自分ができるとはやっていこう。
- 災害が起こったときのために準備をしておこう。
 - 避難訓練や防災リュック
- 自分の命も人の命も大切にしよう。

こんな授業をして、本当に震災学習といえるのだろうか。1月に「震災学習」を特設すれば、それでいいのだろうか。もっと子どもたちに伝えていかなければならないものがあるのではないだろうか。震災を通して、子どもたちに何をつかませ、どんな力をつけてやればいいのか。いつも震災記念日？が近づくと、学校やマスコミがさわぐ。へんなボランティアが出現する。美談やつらい悲しい話をする。

何か、おかしい気がするのは、私だけだろうか。

1月の震災学習の授業は、

- ①子どもたちにどんな震災であったかを写真・ビデオ・DVD等で紹介する。
 - または、震災に関する手記や記事を読む。
- ②感想文を書く。
- ③避難訓練をしたり、防災リュックを考えたりする。

※この程度でいいのではないだろうか。

それより、普段から震災を絡めて大切なことを子どもたちに伝えていかなければならないのではないだろうか。

①心を育てるために

やさしい心・思いやりの心・親切心・がまんするということ・自分を犠牲にするということ
ゆずりあうということ・協力・協調・仲間意識・絆・ものを大切にする心・感謝の心
無駄をなくする・ぜいたくをしない など

②ボランティア

- ・人の願いや想いを叶えるために支援すること。
- ・「人のためにしてあげる」のではなく「人間としてやらなければいけないこと」と感じる事。
- ・自分を犠牲にすること。
- ・親切の押し売りではない。

②命を守るために

避難訓練をしたり、防災リュックを考えただけでは、命を守ることはできない。

状況を把握する力・情報収集能力・情報選択能力・的確な判断力・決断力 優先度を定める力・問題解決能力・先を読む力
--

などが必要であると思う。

危機管理について

緊急事態、すなわちあらゆる種類の災害、事故、犯罪など非日常的な危機事態に対して、組織が採る対策と手順の全般のことを危機管理という。

危機管理には、

- ①リスクマネジメント：発生するかもしれない危機に対して事前に対応しておこうという行動。
- ②クライシスマネジメント：すでに発生した危機に対して、そこから受けるダメージをなるべく減らそうという概念。

がある。

しっかりリスクマネジメントに力をいれ、それによって、臨機応変に対応できる能力を身につける必要がある。

「釜石の奇跡」は、クライシスマネジメントが優れていたと考えられる。

「大川小の悲劇」は、リスクマネジメントのみで、判断を誤ったといえる。